

# 大島古清水遺跡 第2地点（神奈川県相模原市）

株式会社イビソク 三澤壯太（士-205）

## 1. 遺跡の概要

本遺跡は神奈川県相模原市緑区大島字古清水に所在する。相模川中流左岸の河岸段丘の縁辺部に位置し、調査区西側の急崖から相模川までの比高差は約40mある。周辺には旧石器時代から縄文時代を中心に遺跡が分布しており、本遺跡（相模原市No.107遺跡）の周知内容は縄文時代・奈良・平安時代の集落遺跡である（第2図）。本調査は宅地造成計画に伴う道路・擁壁計画箇所を対象に行った（第1図）。検出された巨石を伴う配石遺構群は、他に類例のみられない特殊遺構である事から、事業者・相模原市教育委員会との協議により、開発事業による掘削の影響を受けない範囲は、現状保存となつたため、一部を除き配石を外しての調査は行わなかった。

## 2. 調査成果

本調査では道路予定部分をA区、擁壁予定部分をB区とし調査を行った（第1・3図）。A区中央に環礫方形配石遺構を伴う柄鏡形敷石住居址が検出され、張出部には敷石が認められた。この住居址と張出部との接続部から連なる巨石を伴う列状配石遺構も認められた。巨石を伴う列状配石は立石も配され、東南へ延びていくと考えら

れる。この列状配石と張出部の敷石の東側には無配石範囲を囲う様に護岸状に石を積み重ねた石積遺構も認められた。B区でもA区の配石の延長とみられる配石遺構を確認した。これらの遺構の覆土からは縄文後期中葉～後葉の土器が多く出土しており、特に県内では稀有な高井東式土器が多出した。

## 3. まとめ

このように環礫方形配石遺構を伴う柄鏡形敷石住居址、列状配石遺構、石積遺構、配石遺構が連続するように検出され、一連の遺構群の様相を呈している。覆土は暗褐色土を主体とした上層と、ローム土を主体とした下層に分かれたが、下層の上面にも小規模の配石が確認出来たことから、配石遺構の構築のみならず、配石遺構を埋める行為自体も一連の構築作業と考えられる。

## 参考文献

ジェイズホーム株式会社・株式会社イビソク神奈川営業所  
2020『大島古清水遺跡 第2地点-宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』



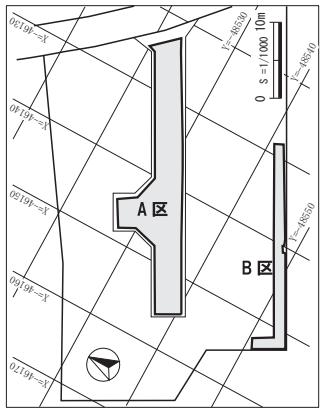
写真1 巨石検出状況(南西から)



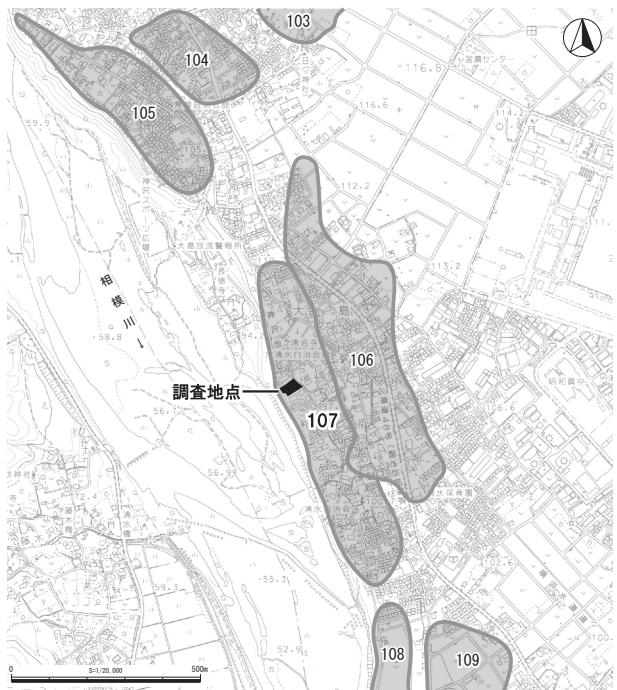
写真2 配石遺構群検出状況(南西から)



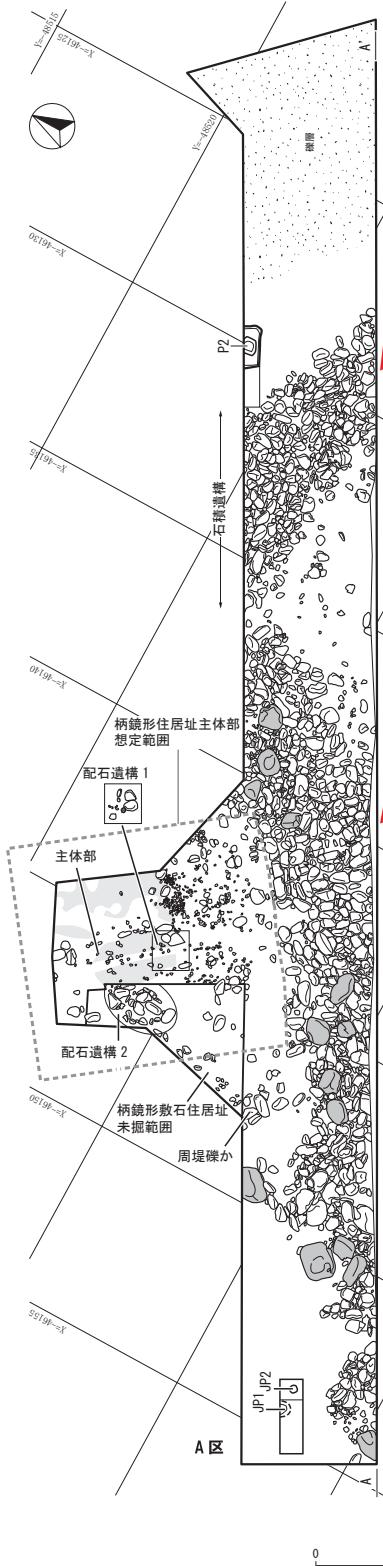
写真3 A区全景(オルソ画像)



第1図 敷地範囲と調査区位置

写真4 調査区全景  
(東から相模川を望む)

第2図 周辺の遺跡と調査地点



第3図 遺構分布図

写真5 石積遺構 3Dキャプチャ  
(調査区外南西から)

写真6 敷石遺構検出 (南から)



写真7 高井東式 波状口縁深鉢



写真8 高井東式 波頂部破片



写真9 異形台付土器